

はじめに

インクルーシブ教育システムの構築・推進が現在様々な取組を通じて、各地域でなされている。一方で、その推進に関して、地域によって様々な課題を抱えている状況にある。

こうした中、国立特別支援教育総合研究所では、地域実践研究事業を立ち上げ、その中で、インクルーシブ教育システム構築に向け、地域や学校が直面する具体的な課題を研究テーマに設定し、地域と協働してその解決を目指す地域実践研究を行っている。本研究はその中の1つ、学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究である。

インクルーシブ教育システムの中で合理的配慮の提供を行うことは、児童生徒が有する学習上の困難等を軽減・克服し、最大限力を発揮できるようにすることで、児童生徒の教育の権利を守る事を目的としている。こうした事が実現するためには、その地域や学校の特別支援教育の専門性などの基礎的環境整備の状況の上に、保護者・本人と学校との合意形成の上で、行うべき合理的配慮が決められる必要がある。

現時点においては、地域や学校による環境や条件の違いへの対応や、児童生徒を実際に指導する教師や特別支援教育体制を構築する立場にある教師に対して、合理的配慮とこれまでの支援との違い等、基本的な考え方や知識を提供する努力が行われている段階であること等、様々な課題があると考えられる。

この研究では、小・中学校に在籍する児童生徒への合理的配慮を提供に向けて、その体制づくりのために教育現場にはどのようなニーズがあるのか、またその普及にはどのような方策があるのかを検討する事を目的としている。

また、地域実践研究として、V、VI、VIIでは、基礎的環境整備体制の充実に関する取組、VIIIでは、合理的配慮の検討プロセスに関する取組を報告し、地域の合理的配慮及び基礎的環境整備の課題についてと、課題解決の方策に関して検討し、この研究のテーマである合理的配慮と基礎的環境整備について今後どのように考えるべきかについて報告したい。

横尾 俊